

令和5年度入学生用  
1年次(令和5年度開講)

留学生特別科目  
【教育課程】



## 令和5年度入学生 教育課程

別表 第5 留学生特別科目教育課程表  
(○印は一般教養科目と重なる)

授業科目名の前の数字はページ番号

授 業 科 目	授 業 形 態	履修方法		開 講 学 期 単 位 数				備 考
		履 修 単 位 数		1前	1後	2前	2後	
		必修	選択					
<b>外国人留学生特別科目</b> *日本語を第一言語(母語)とする学生は、下記の科目を受講することはできない。								
3	○ 日本語演習 I	演 習	2		2			日本語演習 I～IIの修得単位は外国語演習の単位に代えることができる。 *但し、教員免許の取得を希望する場合は、日本語演習以外の言語を選択し、I・IIを連続で履修する必要がある。 但し、科目の修得単位は一般教養科目の単位に代えることができる。 *履修方法については各学科毎に定める
5	○ 日本語演習 II	演 習	2		2			
	日本語演習 III	演 習	2			2		
	日本語演習 IV	演 習	2				2	
7	日本事情 I	演 習		1	1			
9	日本事情 II	演 習		1	1			
	日本事情 III	演 習		1		1		
	日本事情 IV	演 習		1			1	
最低修得単位数			8	4				

別表 第6 認定絵本土養成科目

授 業 科 目	授 業 形 態	履修方法		開 講 学 期 単 位 数				備 考
		履 修 単 位 数		1前	1後	2前	2後	
		必修	選択					
認定絵本土養成講座A (知性を深める)	講義及び演習	1			1			13科目 (21.5h)
認定絵本土養成講座B (絵本の技能を高める)	講義及び演習	1			1			8科目 (14.5h)
認定絵本土養成講座C (感性を磨く)	講義及び演習	1			1			9科目 (14.5h)
最低修得単位数			3					計 30科目 (50.5h)



科目名	日本語演習 I		科目ナンバー	AR021007
担当者	村本 茜			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目 [留学生特別科目]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では、日本語学校で習ったN2レベルの日本語の文型をもう一度勉強し、しっかり使えるようにします。そのあと、N1レベルの文型を学んでいきます。短期大学の授業では、日本語学校で習ったことがない専門的な語いも覚える必要がありますから、その勉強もします。また、漢字は問題集を使い、書くよりも、読む練習をたくさんします。			
授業の到達目標	1. JLPTのN1～N2レベルの日本語の文型をおぼえ、使えるようになる2. 短期大学の授業で使われる語いをおぼえ、理解できるようになる3. 読める漢字の量をふやす			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	テストをして、みなさんの日本語の能力を調べます	村本
第2回	行為の対象 文型：～にこたえて・～をめぐる・～にかかわる 語いと漢字1	村本
第3回	目的・手段・媒介 文型：～上で・～べく・～をもって 語いと漢字2	村本
第4回	起点・終点・限界・範囲 文型：～をはじめ・～からして・～を限りに 語いと漢字3	村本
第5回	時間的同時性・時間的前後関係 文型：～とともに・～と思ったら・～次第 語いと漢字4	村本
第6回	進行・相関関係 文型：～つつある・～ようとしている・～ばかりだ 語いと漢字5	村本
第7回	付帯・非付帯 文型：～つつ・～ぬきで・～をぬきにして 語いと漢字6	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	限定 文型：～に限り・～かぎり(は)・～かぎりでは・ただ～のみ 語いと漢字7	村本
第10回	非限定・付加 文型：～に限らず・～のみならず・～にとどまらず 語いと漢字8	村本
第11回	比較・程度・対比 文型：～くらいなら・～にもまして・～ないまでも 語いと漢字9	村本
第12回	基準 文型：～に沿って・～に基づいて・～を踏まえて 語いと漢字⑩	村本
第13回	関連・対応 文型：～次第では・～に応じて・～を契機に(して) 語いと漢字⑪	村本
第14回	無関係・無視・例外 文型：～にかかわらず・～はともかく・～いかんによらず 語いと漢字⑫	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で教わったことを、その日に家でもう一度勉強してください	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します
質問・相談方法	何かあれば、授業中や授業の前後に相談・質問してください
オフィスアワー	
テキスト	特になし(プリントを配ります)
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円 ( I S B N : 978-4757418905)
成績評価基準	勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします
成績評価の方法	授業態度(20%) 中間テスト(40%) 課題レポート(40%)
GPA基準	
備考	受講対象者 留学生のみ

科目名	日本語演習Ⅱ		科目ナンバー	AR022012
担当者	村本 茜			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目 [留学生特別科目]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では、前期の「日本語演習Ⅰ」で勉強した文型よりも、少し難しいN1レベルの文型を勉強します。それぞれの学科に必要な語いを学び、読める漢字の量もさらにふやします。また、さまざまな場面での会話練習や、日本のニュース記事などを読んで、自分の意見や考えを言ったり、書いたりする練習もします。			
授業の到達目標	1. N1～N2レベルの日本語の文型をさらに勉強し、使えるようになる2. 短期大学の授業で使われる語いをさらにおぼえ、理解できるようになる3. 読める漢字の量をさらにふやす			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○ (複数可)、最も関連深いDP番号は◎ (1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	夏休みにしたことについて、発表します	村本
第2回	例示 文型：～といった・～にせよ～にせよ・～であれ～であれ 語いと漢字1	村本
第3回	程度の強調 文型：～てこそ・～までして・～すら・～極まる 語いと漢字2	村本
第4回	話題 文型：～といえば・～といったら・～のこととなると 語いと漢字3	村本
第5回	逆接・譲歩 文型：～つつも・～にもかかわらず・～にせよ・～とはいえ 語いと漢字4	村本
第6回	原因・理由 文型：～ものだから・～ばかりに・～につき 語いと漢字5	村本
第7回	仮定条件・確定条件 文型：～ないことには・～ないかぎり・～なくして(は) 語いと漢字6	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	逆接仮定条件 文型：～にしても・～にせよ・～であろうと・～ようが～まいが 語いと漢字7	村本
第10回	不可能・可能・困難・容易 文型：～がたい・～かねる・～にたえる・～にたえない 語いと漢字8	村本
第11回	傾向・状態・様子 文型：～っぽい・～気味・～きらいがある・～まみれ 語いと漢字9	村本
第12回	経過・結末 文型：～あげく・～末(に)・～に至って(は) 語いと漢字⑩	村本
第13回	否定・部分否定 文型：～ことなく・～ことなしに・～までもなく 語いと漢字⑪	村本
第14回	伝聞・推量 文型：～ということだ・～とのことだ・～とか 語いと漢字⑫	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	勉強した表現を、ほかの授業でたくさん使ってくださいアルバイトなど、学校の時間じゃないときにも、よく漢字を読んでください	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します		
質問・相談方法	授業中及びオフィスアワーの時間に対応します		
オフィスアワー			
テキスト	特になし(プリントを配ります)		
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円 ( I S B N : 978-4757418905)		
成績評価基準	勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします		
成績評価の方法	授業態度(20%) 中間テスト(40%) 課題レポート(40%)		
GPA基準			
備考	受講対象者 留学生のみ		

科目名	日本事情 I	科目ナンバー	AR041008
担当者	岩切 朋彦		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次		科目群	留学生特別科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	本授業は留学生が日本の習慣と日本の文化を知り、日本の社会を理解するための授業です。「日本事情 I」では、マンガやアニメ、音楽など、主に日本のポピュラーカルチャー（大衆文化）から日本の文化について理解を深めていきます。
授業の到達目標	1. 日本のポピュラーカルチャーから日本社会について理解できる 2. マンガやアニメについての基本的な知識と、その歴史的変遷について知ることができる 3. 日本のポピュラーカルチャーについて詳しく理解し、ジャンルごとに説明することができる

ディプロマポリシー（DP）	①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	日本のマンガの特徴と、その書き方	岩切
第2回	日本のマンガのルーツと時代背景	岩切
第3回	浮世絵の登場とその時代背景	岩切
第4回	浮世絵に影響を受けた西洋の芸術	岩切
第5回	幕末期のマンガーチャールズ・ワグマンと『THE JAPAN PUNCH』	岩切
第6回	アメリカのコマ漫画の影響と、子どものためのストーリー漫画	岩切
第7回	戦争中のマンガと『サザエさん』	岩切
第8回	「マンガの神様」と呼ばれた男、手塚治虫	岩切
第9回	日本でのアニメーションの発展とその社会背景	岩切
第10回	戦後日本アニメの発展—虫プロダクションからジブリまで	岩切
第11回	戦後の流行歌、坂本九と「上を向いて歩こう」	岩切
第12回	戦後の歌謡曲と美空ひばり	岩切
第13回	テレビの普及とアイドルの誕生	岩切
第14回	J-POPに見る英語の歌詞	岩切
第15回	ファミリーコンピュータの登場と、テレビゲームの発達	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	担当教員は日本語学校で、日本語教師として働いたことがあります		
事前学習	日本のマンガをたくさん読み、アニメも見てください。アニメは字幕を見ないで見てください	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	その日の授業で取り上げた内容のアニメなどを、インターネットで調べてもう一度見てください	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	授業の後に感想を聞いて、理解できたかどうかを調べます		
履修 相談先	授業の前後のオンラインサポート 不対応します		

質問・相談内容	授業の前夜にオフィスアワーで対応します
オフィスアワー	金曜日 10:50~12:20 研究室(西館407号室)
テキスト	特になし(プリント配付)
参考文献等	特になし
成績評価基準	①日本のポピュラーカルチャーに対する理解度 ②母国のポピュラーカルチャーとの違いについて考えることができる ③受講態度
成績評価の方法	期末レポート(80%) 受講態度(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	日本事情Ⅱ	科目ナンバー	AR042013
担当者	岩切 朋彦		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次		科目群	留学生特別科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	本授業は、留学生が日本の習慣と文化を知り、日本の社会を理解するための授業です。「日本事情Ⅱ」では、日本の生活文化、年間の行事・祝祭日、政治経済、観光、多文化共生などについて説明します。また、日本語の表現も中級から上級の難しいものに挑戦します。
授業の到達目標	1. 日本の生活や文化について今より詳しい内容を知ることができる 2. 日本の政治経済や社会の仕組みについて今より詳しいことを理解できる 3. 日本社会の多文化化と多文化共生に向けた考え方について理解できる

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	日本という「国民国家」	岩切
第2回	都市と地方の違い	岩切
第3回	旅行に行くならどこへ行く？	岩切
第4回	日本の食と母国の食	岩切
第5回	年中行事と非日常	岩切
第6回	教養として知る日本の歴史	岩切
第7回	「伝統文化」は本当に「伝統」ですか？	岩切
第8回	ポップカルチャーも立派な文化	岩切
第9回	日本で人気のあるスポーツについて	岩切
第10回	科学技術の進歩と未来社会	岩切
第11回	環境問題を解決するには	岩切
第12回	子どもたちと教育	岩切
第13回	日本の産業構造と経済	岩切
第14回	日本国憲法と政治(国会中継を見てみよう)	岩切
第15回	多文化共生社会をめざして	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	担当教員は日本語学校で、日本語教師として働いたことがあります		
事前学習	テキストを読んで予習をしてください	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	その日の授業で勉強したことを復習してください	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	授業の後に感想を聞いて、理解できたかどうかを調べます		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応します		
オフィスアワー	金曜日 10:50~12:20 研究室(西館407号室)		

テキスト	特になし(プリント配付)
参考文献等	特になし
成績評価基準	1日本の国内事情に対する理解度 2日本と母国の違いについて考えることができる 3受講態度
成績評価の方法	期末レポート(80%) 受講態度(20%)
GPA基準	
備考	